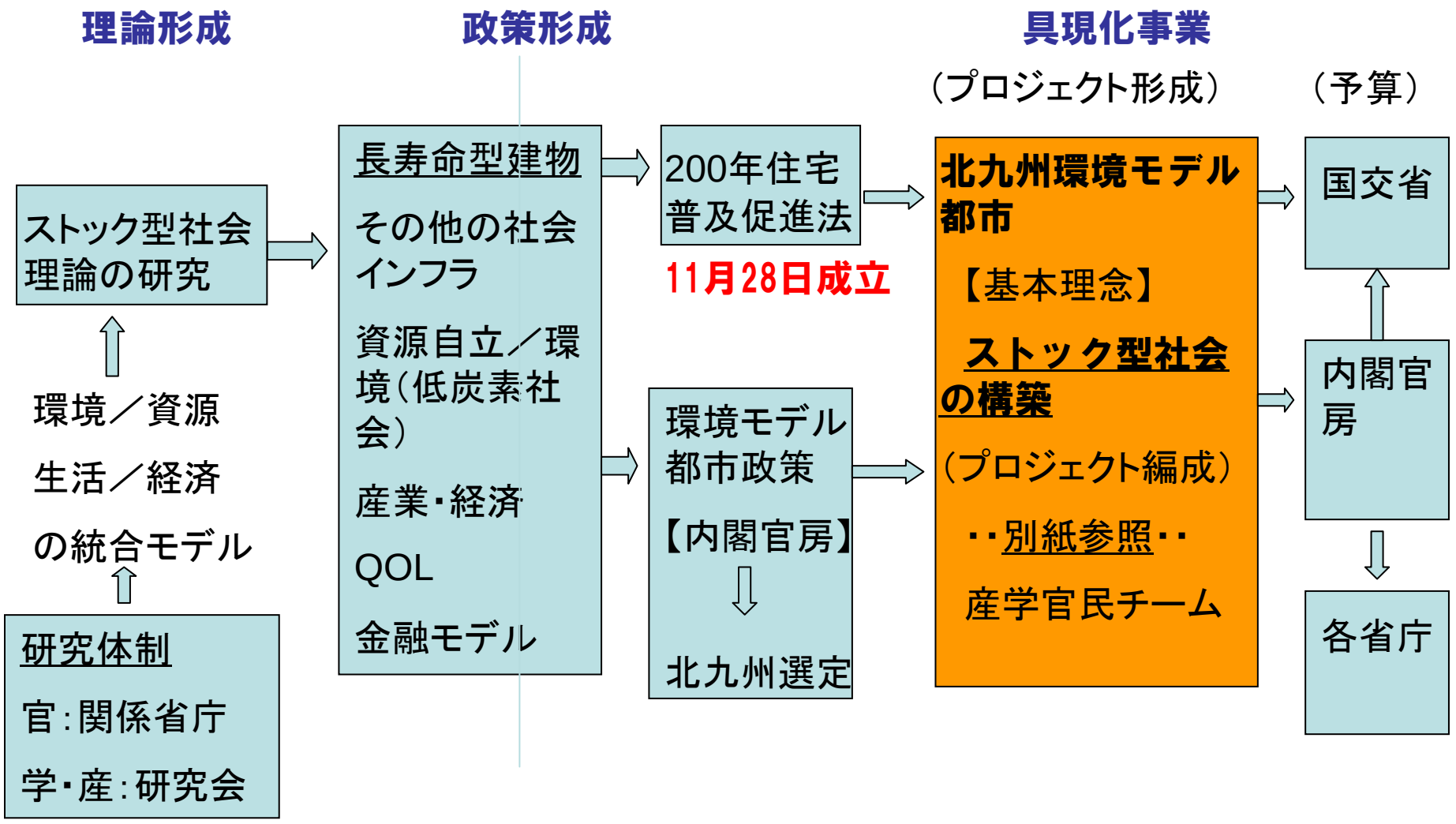
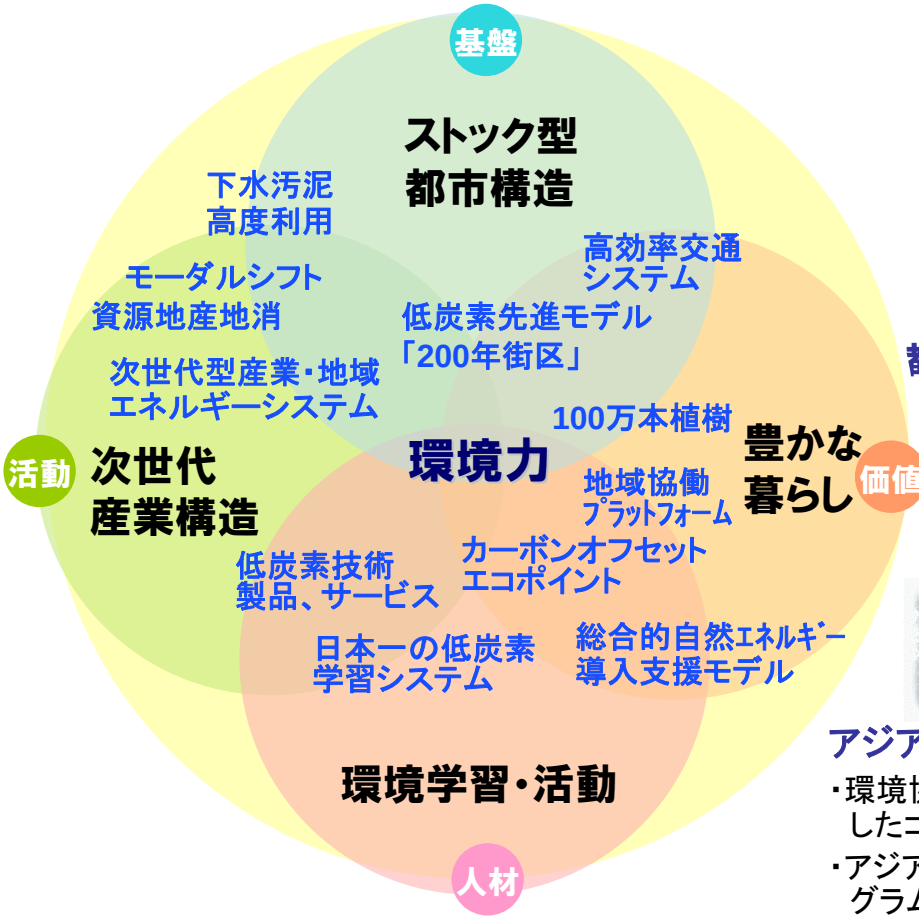
「ストック型社会形成地域モデル」の経緯と今後の展開



取組のアプローチ



アジアとの
都市間環境外交

アジアの
環境都市
モデル
北九州市

アジア低炭素化センター

- 環境協力都市ネットワークを活用したコ・ベネフィット低炭素化協力
- アジア低炭素化人財育成プログラムの実施
- アジア低炭素ビジネスの創出

コ・ベネフィットによるアジア地域の持続的発展

日中両国政府首脳同席のもとで、北九州市と中国・天津市が"エコタウン協力"で覚書締結

都市分野における目標と取組み方針

■目標：低炭素社会を実現するストック型都市への転換

■目標の考え方：

本市の高度な素材技術、多核都市構造、工場とまちの近接性などの特性を活かし、長寿命でエネルギーの利用が少ないコンパクトな都市を目指すとともに、工場との連携による都市内の効率的なエネルギーの活用やCO2吸収源としての効果が大きい緑の拡大を進め、低炭素で豊かな生活が出来るストック型都市づくりを推進する。

■取組み方針

1. 低炭素先進モデル200年街区の形成

(1) 先進モデル街区の形成
(2) 200年住宅など建物の長寿命化
(3) 環境配慮型建築物の普及

2. 低炭素型都市構造、都市システムへの転換

(1) 歩いて暮らせる集約型都市構造への転換
(2) 高効率交通システムの構築
(3) モーダルシフトの推進
(4) 総合的な緑化・森林整備の実施

3. 省資源・省エネルギー都市の実現

(1) 企業技術者による街なかの省エネ診断
(2) 工場とまちの省エネルギーシステム構築
(3) 下水汚泥の高度利用による省資源システム構築

ストック型社会とは：長寿命型の社会資本・都市構造の社会システム

＊200年住宅はその一要素

●世代を超えた資産蓄積　⇒　豊かな生活
⇒　安定した経済構造

●世代を超えた資源蓄積　⇒　資源浪費回避（CO2抑制）
⇒　自然・地球環境保全
⇒　資源自立圏（資源安全保障）

この実現を地域から目指す

環境モデル都市（内閣官房：地域活性化統合本部）**で実現する。**

＊環境モデル都市には現在6自治体が選定されている。

＊「環境モデル都市／北九州」は「ストック型社会への転換」が理念。

●「ストック型社会」への転換・・・・結果として低炭素社会になる。

2050年までにCO2の排出量を50%以下に

ストック型社会の実現は・・・異分野のコーディネーション

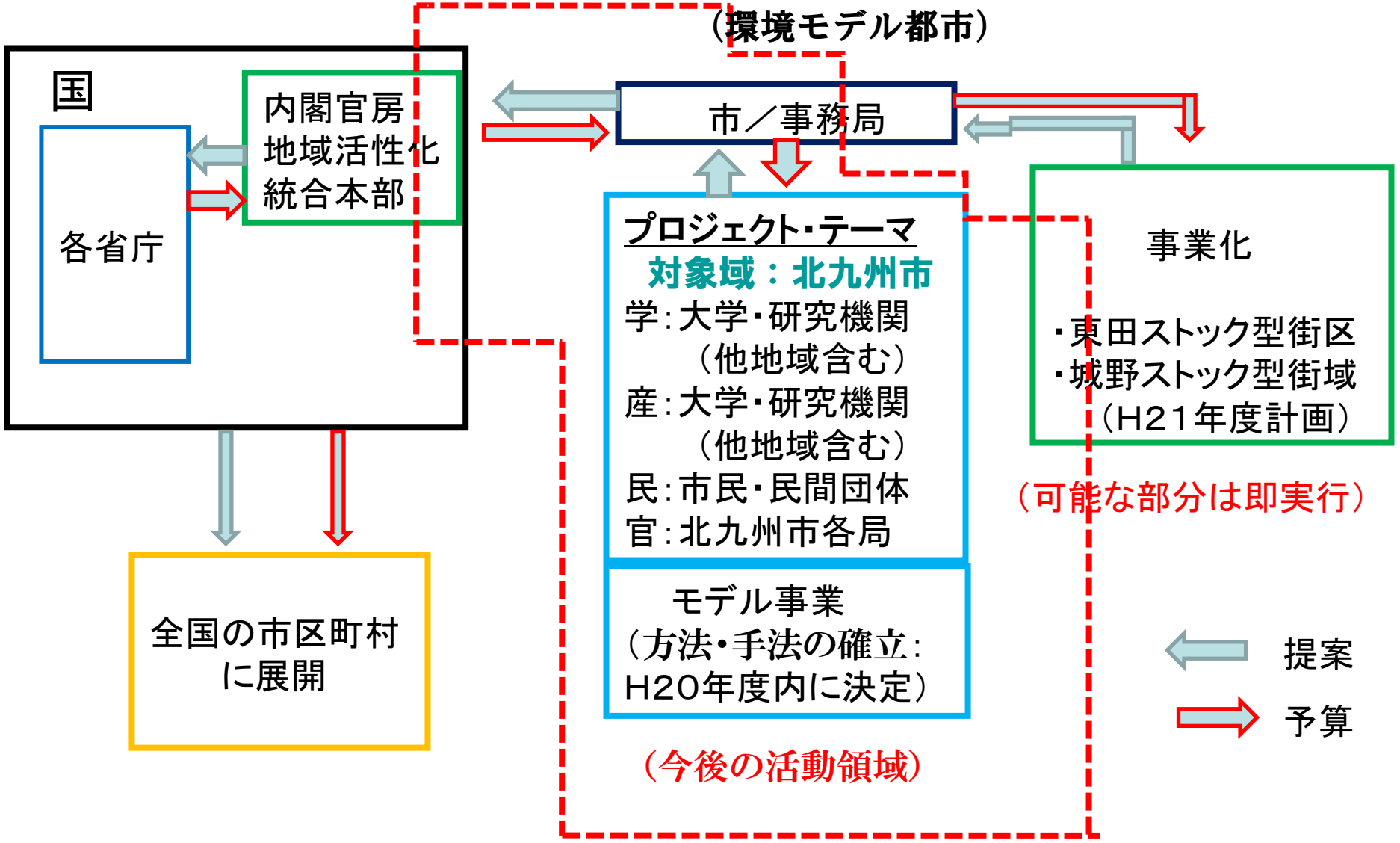
●社会科学、自然科学／工学、人文科学　の統合的アプローチ

●官々連携、産学官民連携でのみ成立

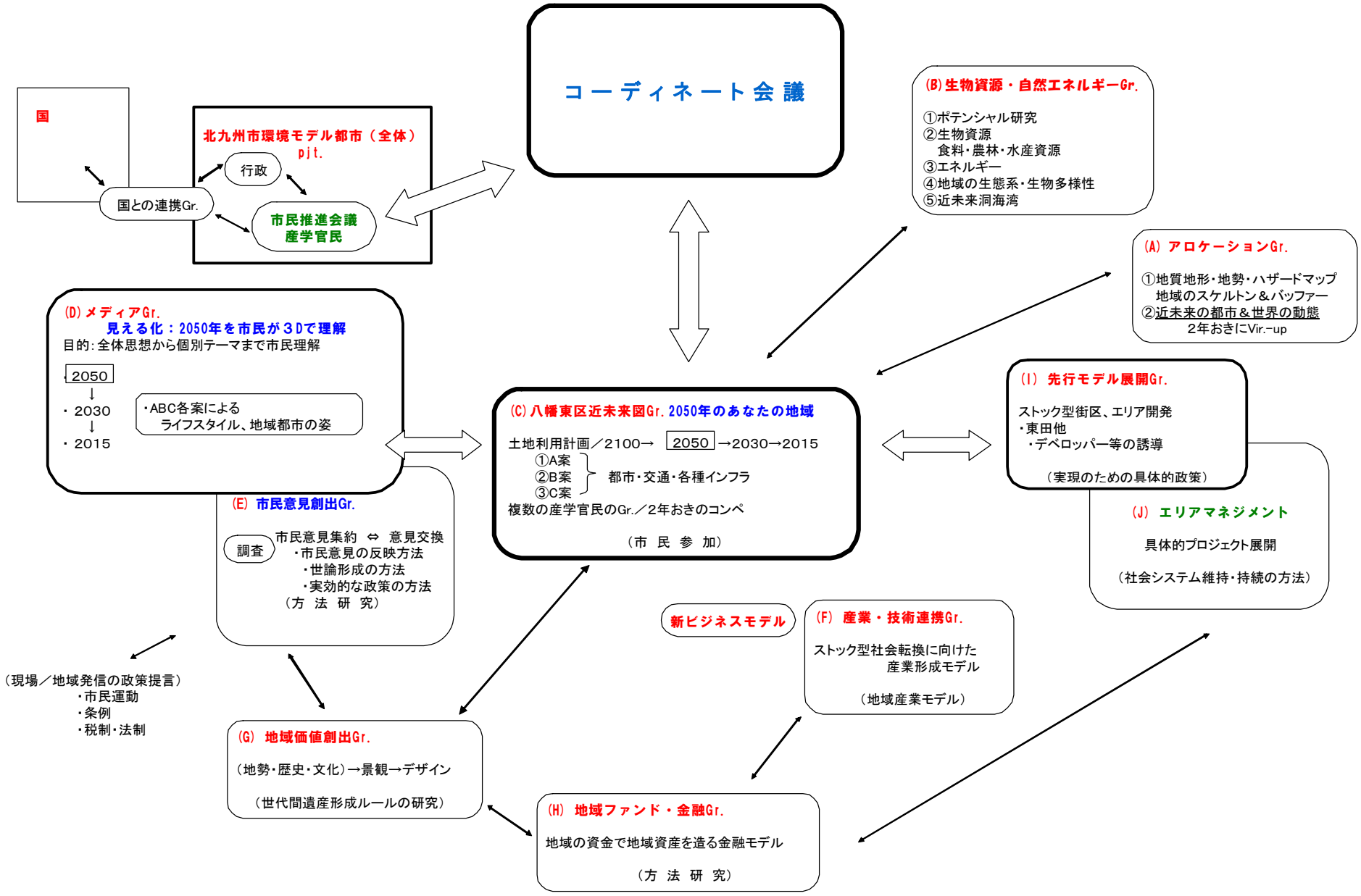
「環境モデル都市／
北九州モデル」
の他地域・他都市、
アジアへの移転

拠点の構築

環境モデル都市／具現化事業フレーム



「八幡東区ストック型地域圏」プロジェクト構成（案）



北九州市環境モデル都市／ストック型社会プロジェクト事例）

プロジェクト名		官		学	産・民
		国	市		
A: 都市：アロケーション		国土計画局	建築都市局	ポリテクカレジ	Z社、S社
自然・生物系	B1：都市内生物回廊	環境省	建築都市局	九国大、定量研	定量研各社
	B2：洞海湾資源再生	港湾局	環科研	九州共立大	定量研各社
	B3：C.C.域再田園化	農水省	産業経済局	九国大	SP社ほか
	B4：木質200年住宅	住宅局	建築都市局	京大、和歌山大	N設計
	B5：曽根干潟総合再生	環境、農水	環境局	九国大、共立大	定量研各社
C：2050年都市づくりゴールV.		内閣官房	推進本部	九国大、ポリテク	
D：都市づくり「見える化」S.		総務省	推進本部	同上	（財）HMCほか
E：地域再生民意創出手法		内閣官房	推進本部	九国大（法）	
F：ストック型産業経済構造		経済産業省	産業経済局	九国大（経）	不動産鑑定研
G：C.C.域：新交通システム			推進本部	九国大	
H：ストック型街区先行プロ		都市・地方整備局ほか	建築都市局 環境局	九国大、早稲田、北九大，ポリテ	建築、設計、デベロッパー
I：同上　エリアマネジメント					